

同時通訳夏季研修会のご案内

1. 参会受付

- 一橋講堂2階「一橋講堂ロビー」にて、7月20日（金）午前8：40より受付を開始します。参会者カードに必要事項をご記入のうえ、第33回日本脳神経外科国際学会フォーラムへの参会費とともに、合計17,000円（JNEF 年会費2,000円を含みます）をお支払いください。
- 受付は現金のみです。クレジットカードやデビットカードはお使いいただけません。おつりの出ないようご準備くださいますようお願いいたします。

2. Trainee ならびに trainer の方々へ

次項「進行について」をご熟読ください。

3. Ken's Award と会長賞

日→英同時通訳の評価点で最高点の trainee には Ken's Award が、また英→日同時通訳の最高点の trainee には会長賞が贈られます。

4. 同時通訳研修会演者の皆様へ

- スクリーン1面、8分程度の発表をご準備ください。時間には余裕を持たせてありますので、ゆっくりご発表くださるようお願いいたします。画面は英語表記が望ましいですが、無理は申しません。それもいい練習になることでしょう。
- データは USB フラッシュメモリ または CD-R に保存してお持ちください。用意している PC は、Windows 10 の PowerPoint 2010、2013、2016 です。
- できるだけ OS 標準フォント（MS ゴシック、Arial など）をご使用ください。PowerPoint の「発表者ツール」は使用できません。
- Mac で発表される場合や、発表内で動画をご使用の場合には、ご自身の PC をお持ちください。通常の学会同様、モニターはアナログ VGA（ミニ D-sub 15ピン；JNEF プログラムをご参照ください）にのみ対応しています。必要に応じて変換ケーブル／コネクタをご準備ください。併せて、必ず電源アダプターをご持参ください。
- プレゼンテーション内に他のデータ（静止画、動画、グラフ等）をリンクさせている場合には、リンク先の元データも同一フォルダにコピー・保存し、作成した PC とは別の PC（Windows 10）にて事前に動作確認をお済ませくださるようお願いいたします。
- データやメディアは、最新のウイルス駆除ソフトでチェックしてからお持ちください。お預かりしたデータは、学会終了後、責任を持って消去いたします。

5. その他

- 服装は例年通り、ノーネクタイのビジネスカジュアルでお越しください。

進行について

通訳ブース別のグループ分けは以下の通りです。ご自身がどのグループ（ブース）の trainee / trainer かをご確認ください。昨年同様、trainer はブース内外で直接指導、supervisor はフロアで採点をしながら休憩時間などにアドバイスという役割を想定しています。何とぞよろしくご協力ください。

	氏名	所属	参加回数	JNEF演題#	trainers	supervisors
A	1 田村剛一郎	茨城県立こども病院 脳神経外科	2	27	太組 一朗* 井上 智夫 松山 純子	三原 千恵 樋口 佳則
	2 大倉 英浩	順天堂浦安病院 脳神経外科	初	10		
	3 吉田 拓也	埼玉医科大学総合医療センター脳神経外科	初	8		
	4 菊池 美佑	都立神経病院 脳神経外科	初	5		
B	5 丹羽 良子	日本赤十字社医療センター	3	3	谷口 理章* 綿谷 崇史 川堀 真人	赤井 卓也 近藤 威
	6 中村 卓也	長野市民病院 脳神経外科	初	21		
	7 八木 千裕	日本大学医学部附属板橋病院 脳神経外科	初	-		
	8 大池 涼	名戸ヶ谷病院 脳神経外科	初	4		
C	9 末永 潤	横浜市立大学 脳神経外科	3	1	近 貴志* 大宅 宗一 下地 一彰	坂田 勝巳 荻野 雅宏
	10 金子 聡	翠清会 梶川病院	初	-		
	11 遠藤 昌亨	埼玉医科大学総合医療センター脳神経外科	初	12		
	12 黒岩 正文	信州大学 脳神経外科	初	24		
D	13 宮本 伸哉 (20日のみ)	帝京大学ちば総合医療センター	2	7	黒川 龍* 遠藤 俊毅 花 大洵 (20日のみ) 原 淑恵 (21日のみ)	名取 良弘 柴田 靖
	14 磯崎 潤	横浜市立大学附属病院 脳神経外科	初	15		
	15 松橋 阿子	国立成育医療研究センター	初	25		
	16 折口 慎一	千葉大学 脳神経外科	初	13		
	17 清平 美和	山口大学 脳神経外科	初	28		

ブース内は広くない（というか狭い）ので trainee / trainer 全員がブース周辺にいることは不可能です。各ブースの chief trainer* の方は、適宜ローテーションを指示されるなどして、ブース内外の混雑や各 trainee / trainer への負担分散にご配慮ください。もちろん、ご自身の発表や座長、コメンテータ役が近づいたらフロアにお降りいただき、残ったメンバーで trainee / trainer 業務をご遂行ください。